＜先週の説教から＞

『ヘブライ㊸ー人生というマラソン』

武田真治牧師

イザヤ 30：18-22　ヘブライ書 11：39-12：3

長く“信仰の章”と呼ばれるヘブライ書11章を読み進めて来ました。前回、その途中で著者は「これ以上、何を話そう。時間が足りない」と言っていました。手紙なら枚数が足りないというところでは？　でも、逆にここからこの手紙がもともと《説教》であったことが分かります。なぜ、時間がないと思うのか、その理由には早く本来のメッセージを語りたいという思いがあるからと言い得ます。まさにそのメッセージが今日の12章からの箇所なのです。

即ち「こういうわけで、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか」です。ここでの中心になっていることは“自分に定められている競争”という言葉です。これは私たちの“人生”そのものを言い換えている言葉です。私たちの人生は（神様によって定められている）と。これは運命付けられているというよりは、神様が私たちひとりー人の生涯をちゃんと導いていてくださるということです。ただしそれは競争であると言われています。この言葉の原語は（アゴーン）ですが、他者と順位を争う競争ではなく、マラソンのように最後まで走り切ることが出来るかどうかの競技と言い得ます。その上で、なぜ“競技”と言われているかは、単に自由にランニングしたり勝手に走ることではなく、ちゃんと“距離や行程が定められているレース”に“参加する”ことが求められているのです。それこそ《信仰生活》という競技に。

これが信仰生活というマラソンレースであるからこそ、上記の「おびただしい証人の群れ」がこのレースの“観客”となってくださると。しかも「とり囲まれている」とはこのレースを走る人たちを励まそう、守ろうとしてくださっているのだと言い得ます。それは11章に登場して来た旧約聖書の信仰者たちであり、更にはキリスト者として私たちより前に生きた方々も応援席に座って、私たちを『フレーフレー』と応援してくださっているのだと私は思います。だからこのマラソンレースに参加しようと招かれているのです。

ただ、このレースを走り抜くためには「すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨て」る必要があると言われています。確かに、重い物を背負ったままではうまく走れませんし、走行する足を邪魔する「罪」が問題です。これらを取り除いてくれることこそ《洗礼》ではないでしょうか。このレースの初めでも、また走っている途中でも《洗礼を受ける》ことが必要なのだと教えられていると言い得ます。

そして、最後までこのレースを走り抜くためには何より「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら」走ることが何より重要であると言われています。まさに“人を見ないで主を見つめながら”最後まで走り抜きましょう!!

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．3月15日（水）20：00
Ⅱ．3月16日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　地区総会3/21を覚えて
担 当 者：　（水）金剛　（木）新元由
祈りに覚える人：　大野さん　　岡田さん
ハンナの会　3月14日（火）10：30～

【教勢報告】

主日礼拝　　男 23　　女　55　　計　78
祈祷会　Ⅰ．男6　女3　9　　Ⅱ．男3女9　　計12
日曜学校　　幼稚科 10　　小中科 13　計23

【次週主日礼拝】　　3月　１９日（日）

聖　書：　箴　言　　３：１～８
ヘブライ人への手紙　１２：１２～１７

説　教：　「ヘブライ㊺―まっすぐな道を歩くこと」
武田　真治　牧師

讃美歌：　３１２(1)、３２(1)、聖歌隊（＝２８５）、
３０６(1と2)、５２８(1、2、4)、９２(1)

【次週当番表】

司式:坂田長老　奏楽:村上　　礼拝:齋藤長老
献金：岡田　岡野　　受付：飯島　吉岡
会堂準備：小杉 富澤 長田 橘本 北條
看板：曾我　　週報：吉岡　　お花：羽倉

【次週集会予定】　礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・臨時長老会・幼稚園理事会・
オリブの葉編集委員会・日曜学校教師会・
壮年会・聖歌隊練習

６４－１１

週　報

2022年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２３年　　３月　１２日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/